

資本結合をめぐる原理論的諸問題

——証券市場、株式会社、独占・寡占、資本-利子をめぐって——

新田 滋

はじめに	1
第一節 株式資本をめぐる歴史と原理	3
1 重商主義段階・自由主義段階における株式会社の存在と原理論	3
① 重商主義段階・自由主義段階と株式会社	3
② 市場経済の自己組織化の原理として株式会社が規定できるという考え方	5
2 原理論の資本形式と段階論の蓄積様式の関連性をどうとらえるか	7
① 資本形式論と歴史＝論理説	7
② 流通形態、市場経済の自己組織化としての資本形式の展開	8
③ 「客観的に模写」されるのは基礎範疇のみであり、基礎範疇からの理論的構築物は19世紀中葉モデルに拘束されない	11
3 「商品に始まり商品に終わる」論理に意味はあるか	12
第二節 資本結合の原理的展開	15
1 証券市場と原理的規定	15
① 株式市場と株式会社	15
② 株式市場と債券市場	17
2 「貨幣資本家」と原理的規定	19
① 宇野による「貨幣資本家・機能資本家」規定への批判	19
② 原理論の歴史的前提と貨幣財産の原始的蓄積	20
③ 『資本論』第三巻第五篇の草稿研究と monied capital	21
④ 先行諸学説における「資本家・企業家」概念	22
3 資本結合と原理的規定	24
① 「貨幣資本家」と資本結合	24
② 結合資本の所有・支配・経営の分離	30
③ 分化・発生ないし発生・進化の限度の問題	31
4 独占・寡占、金融資本と原理的規定	32
第三節 「それ自身に利子を生むものとしての資本」	35
1 「それ自身に利子を生むものとしての資本」の物神性論的批判は無意味か	35
2 企業者利得と利子の分割観念はいかなる意味で物神性か	43
結語にかえて	51
1 先行諸学説との対比	51
2 資本結合論の再構成に向けて	53
① 方法論的な位置づけ	53
② 流通論レベルでの規定	53
③ 総過程論レベルでの規定	54
④ 独占・寡占、銀行と産業の結合などの規定	54
編集後記	59